

# 中小企業様対象の 補助金制度のご紹介

## 事業再構築補助金 ー通常型/特別型/最低賃金枠ー 4次締切(2021年12月21日)に向けて

2021年11月 第1版  
野本中小企業診断士事務所

### 目次

---

1. 補助金とは？
2. 令和3年中小企業支援補助金
3. 事業再構築補助金
4. その他の補助金
5. 弊社支援内容
6. 質疑応答

## 1. 補助金とは？

- 補助金とは、国や都道府県、市町村などの地方自治体が民間企業のために支出する支援金（税金より支出）。
- 事業所のある自治体に申請（内容、申請書も異なるので要注意）。
- 返済義務はありません（業績等により返済の可能性あり）。
- 経済産業省関係が**補助金**、厚生労働省関係が**助成金**と呼ばれる場合がありますが、助成金は資格要件を満たせば受けられることが補助金とは大きく異なります。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

3

## 1. 補助金とは？

- 毎年予算が決まっており、内容によって精査されます
- 例：ものづくり補助金の**採択率は40%前後**  
小規模事業者持続化補助金の**採択率は30～80%**
- 事業計画等を提出するなど、補助金を使った投資等がどのように企業業績や業界、社会に影響するかを訴える必要があります。
- 申請→採択→**投資（自社のお金で）**→投資を証明する書類の提出  
→補助金入金

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

4

## 1. 補助金とは？

- ❑ 事業再構築補助金1・2次締切採択状況
- ❑ 申請数、採択数、採択率まとめ(3次採択発表は11月末予定)
- ❑ 2次は1次より少し採択率が上昇:36.1%⇒44.9%
- ❑ 特別枠の採択率が通常枠よりかなり良い傾向は継続:66.6%:36.3%

| 第2回目     | 全申請者   |       |       |        |
|----------|--------|-------|-------|--------|
|          | 通常枠    | 特別枠   | 卒業枠   | 合計     |
| ①申請者数    | 14,859 | 5,893 | 48    | 20,800 |
| ②要件適合者数  | 13,219 | 5,078 | 36    | 18,333 |
| ③採択者数    | 5,388  | 3,924 | 24    | 9,336  |
| ④採択率(対①) | 36.3%  | 66.6% | 50.0% | 44.9%  |
| ⑤採択率(対②) | 40.8%  | 77.3% | 66.7% | 50.9%  |

| 第1回目     | 合計     |       |       |        |
|----------|--------|-------|-------|--------|
|          | 通常枠    | 特別枠   | 卒業枠   | 合計     |
| ①申請者数    | 16,968 | 5,181 | 82    | 22,231 |
| ②要件適合者数  | 14,843 | 4,326 | 70    | 19,239 |
| ③採択者数    | 5,104  | 2,866 | 46    | 8,016  |
| ④採択率(対①) | 30.1%  | 55.3% | 56.1% | 36.1%  |
| ⑤採択率(対②) | 34.4%  | 66.3% | 65.7% | 41.7%  |

5

## 2. 令和3年度中小企業支援補助金

- ❑ 中小企業の生産性革命を応援します！
- ❑ <https://seisansei.smrj.go.jp/#n01>

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

6

## 2. 令和3年度中小企業支援補助金

### □ ものづくり補助金



### □ IT導入補助金



### □ 小規模事業者持続化補助金

### □ 商工会議所/商工会



copyright©2020 nomoto partners all right reserved

## 2. 令和3年度中小企業支援補助金

### □ 事業再構築補助金

### □ <https://jigyuu-saikouchiku.jp/>



copyright©2020 nomoto partners all right reserved

## 2. 令和3年度中小企業支援補助金

- ミラサポプラス
- <https://mirasapo-plus.go.jp/>



9

## 3. 事業再構築補助金①

- 目的
- 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、当面の需要や売上の回復が期待し難い中、ウィズコロナ・ポストコロナの時代の経済社会の変化に対応するために新分野展開、業態転換、事業・業種転換、事業再編又はこれらの取組を通じた規模の拡大等、思い切った事業再構築に意欲を有する中小企業等の挑戦を支援することで、日本経済の構造転換を促すことを目的とします。
- 政府の政策の方向性
  - ・賃金の増加
  - ・雇用の増加
  - ・GDPの増加⇒付加価値の増加⇒営業利益＋人件費＋減価償却費(投資)

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

10

### 3. 事業再構築補助金②

- 公募期間
- 第3次公募

|      | 月日             | 時間    | 備考              |
|------|----------------|-------|-----------------|
| 公募開始 | 2021年10月28日(木) | 18:00 | 電子システムへの入力はまだ不可 |
| 申請受付 | 2021年11月中旬予定   | ?     | 電子システムへの入力開始時間  |
| 募集締切 | 2021年12月21日(火) | 18:00 | 電子システムで入力終了     |
| 採択決定 | 2021年11月中～下旬予定 |       |                 |

#### 3次公募以降の公募予定

- 令和3年度内にさらに1回の公募を予定
- 令和4年1月中旬に公募開始、3月締め切り(予想)

□ 採択されなかった場合、次回以降の公募に再度応募が可能。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

11

### 3. 事業再構築補助金③

- 補助対象者: 中小企業者(以下の資本金または従業員数に適合): 法人・個人

| 業種             | 資本金(以下) | 従業員数(以下) | 小規模事業者業種 | 従業員数(以下) |
|----------------|---------|----------|----------|----------|
| 製造・建設・運輸業      | 3億円     | 300人     | 製造業その他   | 20人      |
| 卸売業            | 1億円     | 100人     | 商業・サービス業 | 5人       |
| サービス業          | 5,000万円 | 100人     |          |          |
| 小売業            | 5,000万円 | 50人      |          |          |
| ソフトウェア・情報サービス業 | 3億円     | 300人     |          |          |
| 旅館業            | 5,000万円 | 200人     |          |          |

#### (参考) 税法上の中小企業

資本金1億円以下

- 大企業が出資(①総株式枚数又は総額の1/2以上を同一の大企業、②同2/3以上を複数の大企業)、もしくは役員の1/2以上を派遣、もしくは上記①②の条件の中小企業に所有されている場合、「みなし大企業」となり応募できません。
- 収益事業を行っていない法人、運営費の大半を公的機関から得ている法人は対象外になります。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

12

### 3. 事業再構築補助金④

- **中堅企業の定義**
- 上述の中小企業の定義に該当しない
- 資本金又は出資の総額が10億円未満の法人
- 資本金又は出資の総額が定められていない場合従業員数(常勤)が2000人以下
- 中小企業の定義内でも、応募申請時において確定している(申告済)直近3年間の課税所得の年平均額が15億円を超える中小企業者
- **補助対象者の追加(2次より公募要領に明記)**
- コロナ以前(2020年3月31日以前)から創業を計画等しており、2020年4月1日から2020年12月31日までに創業した場合、特例的に支援対象となります(公募要領P7参照)。
- 一般財団法人及び一般社団法人でも非営利法人に該当しなければ対象となります(公募要領P8)。
- 農業従事者が2次、3次産業分野の事業計画の場合も可能(公募要領P19)。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

13

### 3. 事業再構築補助金⑤

- **補助内容: 全て従業員数により補助額が異なります。**

| 名称        | 概要                                                               | 補助金額                                                            | 補助率                                              |
|-----------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 通常枠       | 新分野展開、業態転換、事業・業種転換の取組、事業再編又はこれらの取組を通じた規模の拡大を目指す新たな挑戦を支援。         | 20人以下: 100～4,000万円<br>21～50人: 100～6,000万円<br>51人以上: 100～8,000万円 | 中小: 2/3 (6,000万円超は1/2)<br>中堅: 1/2 (4,000万円超は1/3) |
| 緊急事態宣言特別枠 | 令和3年国の緊急事態宣言発令により深刻な影響を受け、早期に事業再構築が必要な飲食サービス業、宿泊業等を営む中小企業に対する支援。 | 5人以下: 100～500万円<br>6～20人: 100～1,000万円<br>21人以上: 100～1,500万円     | 中小: 3/4<br>中堅: 2/3                               |
| 最低賃金枠     | 最低賃金引き上げの影響を受け、その原資の確保が困難な特に業況の厳しい中小企業等を支援。                      | 5人以下: 100～500万円<br>6～20人: 100～1,000万円<br>21人以上: 100～1,500万円     | 中小: 3/4<br>中堅: 2/3                               |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

14

### 3. 事業再構築補助金⑥

□ 補助内容:大規模賃金引上枠が追加になりました。

| 名称         | 概要                                                                    | 補助金額                        | 補助率                                              |
|------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------|
| 大規模賃金引上枠   | 多くの従業員を雇用しながら、継続的な賃金の引き上げに取り組むとともに、従業員を増やして生産性を向上させる中小企業等を支援。(150社限定) | 従業員数101名以上:<br>8,000万円超～1億円 | 中小: 2/3 (6,000万円超は1/2)<br>中堅: 1/2 (4,000万円超は1/3) |
| 卒業枠        | 資本金又は従業員を増やし、事業計画期間内に中小企業者から中堅・大企業へ成長する中小企業者を支援。(400社限定)              | 6,000万円超～1億円                | 2/3                                              |
| グローバルV字回復枠 | コロナの影響で大きく減少した売上をV字回復させる中堅企業を支援。(100社限定)                              | 8,000万円超～1億円                | 1/2                                              |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

15

### 3. 事業再構築補助金⑦

□ 対象物

□ 有形・無形の設備投資＋付帯費用(公募要領P23～参照)

| 項目             | 具体例                                                                                                         | 備考                                                    |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| ① 建物費          | 1. 事務所、生産施設、加工施設、販売施設、検査施設、共同作業場、倉庫など事業計画実施に不可欠と認められる建物の建設・改修経費<br>2. 建物の撤去の経費<br>3. 賃貸物件等の原状回復の経費          | ・ 建物の単なる購入や賃貸は対象外<br>・ 入札、相見積必要<br>・ 2、3のみの経費だけでは申請不可 |
| ② 機械装置・システム構築費 | 1. 機械装置、工具・器具(測定工具・検査工具等)の購入、製作、借用経費<br>2. 専用ソフトウェア・情報システム等の購入・構築、借用経費<br>3. 1又は2と一体で行う、改良・修繕、据付け又は運搬に要する経費 |                                                       |
| ③ 技術導入費        | 知的財産権等の導入に係る費用                                                                                              |                                                       |
| ④ 専門家経費        | 本事業遂行のための専門家に対する費用                                                                                          | 申請支援時は不可                                              |
| ⑤ 運搬費          | 運搬料、宅配、郵送料等に係る費用                                                                                            | ②の運搬費は②へ <sup>16</sup>                                |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved



### 3. 事業再構築補助金⑧

#### □ 対象物

|   | 項目          | 具体例                                                                          | 備考                                                                                                  |
|---|-------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑥ | クラウドサービス利用費 | クラウドサービス利用に係る費用                                                              | 補助事業期間内のみ                                                                                           |
| ⑦ | 外注費         | 本事業遂行のために必要な加工や設計(デザイン)・検査等の一部を外注(請負、委託等)する場合の経費                             | 外注先が機械設備、システムを導入しても対象外                                                                              |
| ⑧ | 知的財産等関連経費   | 特許権等の知的財産権等の取得に要する弁理士の手続代行費用や外国特許出願のための翻訳料などの経費                              |                                                                                                     |
| ⑨ | 広告宣伝・販売促進費  | 本事業で開発又は提供する製品・サービスに係る広告の作成、媒体掲載、展示会出展、セミナー開催、市場調査、営業代行利用、マーケティングツール活用等に係る経費 | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業、他の商品・サービスに対する広告・販促は対象外</li> <li>事業期間中の露出、出店が必要</li> </ul> |
| ⑩ | 研修費         | 本事業の遂行のために必要な教育訓練や講座受講等に係る経費                                                 | 入学金、交通費、滞在費は対象外                                                                                     |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金⑨

#### □ その他

(1)GビズIDアカウントによる電子申請のみ対応

<https://gbiz-id.go.jp/top/>

(2) 補助事業期間(通常枠、特別枠、最低賃金枠)

交付決定後12カ月間/採択後14カ月間

(3) 同一法人、事業者は1回の公募につき1申請のみ。複数の事業を計画している場合は、事業計画の中にそれらを全て記載可能。

(4) 50%の議決権を有する子会社は同一法人とみなす。

(5) 不採択となった事業者は以降の回に申請可能。

一度交付を受けると再度申請は不可。

(6) 事務局から事前着手の承認を得ると令和3年2月15日まで購入日を遡り可能(公募要領P27)。今回から事前着手申請もオンライン申請になります。

(7) 複数の事業者が連携して申請可能。代表者が申請も可能(公募要領P18)。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

18

### 3. 事業再構築補助金⑩

#### □ 前回からの変更点

(1) 事前着手申請がメールからオンライン申請へ変更。

(2) 最低賃金枠が優遇されるようになりました。以下ウェブサイトからの抜粋です。  
「なお、第3回公募から最低賃金引上げの影響を受ける事業者の方向けに、新たに最低賃金枠を設けています。

最低賃金枠は、緊急事態宣言特別枠に比べて採択率において優遇されますので、積極的な活用をご検討ください。」

\* 公募要領P35に最低賃金枠への申請自体に加点があると記載されています。

(3) 特別枠の売上減少対象期間が本年9月まで延長されました。

(4) 「パートナーシップ構築宣言」がものづくり補助金に次いで、事業再構築補助金でも加点項目になりました。

### 3. 事業再構築補助金⑪

#### □ パートナーシップ構築宣言

□ <https://www.biz-partnership.jp/>

□ 2020年に経団連などの経済団体及び関係大臣等が作る「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」が創設した、サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築することを、企業の代表者の名前で宣言してもらう仕組み。

□ 2021年10月29日現在約2,590社が宣言済み。

□ 今回から加点項目に追加

#### はじめに パートナーシップ構築宣言とは

新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、我が国の経済は大きな影響を受けています。このような厳しい経済情勢の下では、リーマンショック時のような取引条件の「しわ寄せ」が懸念されます。

また、依然として、中小企業では人との接触機会を減らすテレワークが普及していません。このため、取引先が連携して、テレワークの導入や共通取引基盤（EDI（Electronic Data Interchange））の構築を進めていく必要があります。

こうした課題に対応するため、2020年5月18日に経団連会長、日商会議、連合会長及び関係大臣をメンバーとする「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」を開催しました。

本会議では、厳しい経済状況を乗り越えるためにも、新たに「パートナーシップ構築宣言」の仕組みを導入することで、大企業と中小企業の共存共栄の関係を構築することで合意しました。

「宣言」には、  
① サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を越えた新たな連携、  
② 親事業者と下請事業者との望ましい取引慣行（下請中小企業振興法に基づく「振興基準」）の遵守、  
を盛り込んで頂くことにより、感染症危機下においても、中小企業の事業継続と取引適正化を後押ししていくこととしています。

また、「宣言」した企業の取組を「見える化」するため、（公財）全国中小企業振興機関協会の運営するポータルサイトに、「宣言」を掲載します。

多くの企業経営者の方々が「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表して頂けるよう、よろしくお願い申し上げます。

### 3. 事業再構築補助金⑫

#### □ 基本要件(通常枠、特別枠、最低賃金枠のみ)

#### (1) 事業再構築要件(公募要領P12~14: 追加説明P14~)

| 類型      | 具体的内容                                                                             |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| ① 新分野転換 | 主たる業種又は主たる事業を変更することなく、新たな製品を製造し又は新たな商品若しくはサービスを提供することにより、新たな市場に進出                 |
| ② 事業転換  | 新たな製品を製造し又は新たな商品若しくはサービスを提供することにより、主たる業種を変更することなく、主たる事業を変更                        |
| ③ 業種転換  | 新たな製品を製造し又は新たな商品若しくはサービスを提供することにより、主たる業種を変更                                       |
| ④ 業態転換  | 製品又は商品若しくはサービスの製造方法又は提供方法を相当程度変更                                                  |
| ⑤ 事業再編  | 会社法上の組織再編行為(合併、会社分割、株式交換、株式移転、事業譲渡)等を行い、新たな事業形態のもとに、新分野展開、事業転換、業種転換又は業態転換のいずれかを行う |

□ 業種: 総務省が定める日本標準産業分類に基づく大分類の産業

□ 事業: 総務省が定める日本標準産業分類に基づく中分類以下の産業

21

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金⑬

#### (2) 売上減少要件(公募要領P12~14: 追加説明P15~)

- 2020年4月以降の連続する6か月間のうち、任意の3か月の合計売上高が、コロナ以前(2019年1月~12月又は2020年1月~3月)の同3か月の合計売上高と比較して10%以上減少していること
- 2020年10月以降の連続する6か月間のうち、任意の3か月の合計売上高が、コロナ以前(2019年1月~12月又は2020年1月~3月)の同3か月の合計売上高と比較して5%以上減少していること
- 売上の代わりに付加価値額でも可能(減少率は公募要領P15にて要確認)
- (特別枠) 令和3年の国の緊急事態宣言の影響を受け、令和3(2021)年1月~9月のいずれかの月の売上高が前年又は前々年の同月比で30%以上減少、もしくは、付加価値が45%以上減少。
- (最低賃金枠) 2020年4月以降のいずれかの月の売上高が前年又は前々年の同月比で30%以上減少、もしくは、付加価値が45%以上減少。

22

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金⑭

(3) 認定支援機関要件(公募要領P12~14、追加説明P16)

- 事業計画を認定経営革新等支援機関と策定すること
- 通常枠のみ: 補助金額が3,000万円を超える案件は認定経営革新等支援機関及び金融機関と策定していること

(4) 付加価値額要件(公募要領P12~14、追加説明P16)

- 補助事業終了後3~5年で付加価値額の年率平均3.0%以上増加、又は従業員一人当たり付加価値額の年率平均3.0%以上増加する見込みの事業計画を策定すること
- 基準年度は、補助事業終了月の属する申請者の決算年度とします。(P16)

(5) 最低賃金要件(最低賃金枠)(公募要領P12~14、追加説明P18)

- 2020年10月~2021年6月までの間で、3カ月以上最低賃金+30円以内で雇用している従業員が全従業員の10%以上いる。

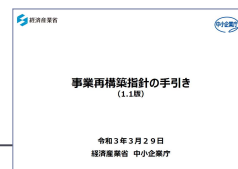
23

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金⑮

□ 一覧

|           | 例                   | 必要要件                 |                                 |                          |               |
|-----------|---------------------|----------------------|---------------------------------|--------------------------|---------------|
| (1) 新分野展開 | 新製品<br>現業種の新市場      | ①製品等の<br>新規性要件       | ②市場の新規<br>性要件                   |                          | ③売上高<br>10%要件 |
| (2) 事業転換  | 新製品<br>新業種の市場       | ①製品等の<br>新規性要件       | ②市場の新規<br>性要件                   |                          | ③売上高<br>構成比要件 |
| (3) 業種転換  | 新製品<br>新業種の市場       | ①製品等の<br>新規性要件       | ②市場の新規<br>性要件                   |                          | ③売上高<br>構成比要件 |
| (4) 業態転換  | 新製品<br>新製造・提供<br>方法 | ①製造方法<br>等の新規性<br>要件 | ②製品等の新<br>規性要件(製<br>造方法の変<br>更) | ③設備投資<br>要件(提供方<br>法の変更) | ④売上高<br>10%要件 |
| (5) 事業再編  |                     | ①組織再編<br>要件          | ②その他の事<br>業再構築要件                |                          |               |



### 3. 事業再構築補助金①⑥

#### (1) 事業再構築要件について

- 以下の5つの要件を満たす必要がある。

|            | 定義                                                                                                                                      | 備考                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①<br>新分野展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>主たる業種又は主たる事業を変更することなく、新たな製品等を製造等し、新たな市場に進出</li> <li>「製品等の新規性要件」、「市場の新規性要件」、「売上高10%要件」</li> </ul> | <p>「製品等の新規性要件」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①過去(※)のに製造等した実績がない</li> <li>②製造等に用いる主要な設備を変更する</li> <li>③定量的に性能又は効能が異なる</li> </ul> <p>「市場の新規性要件」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①既存製品等と新製品等の代替性が低い</li> </ul> |
| ②<br>事業転換  | <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな製品等を製造等することにより、主たる業種を変更することなく、主たる事業を変更</li> <li>「製品等の新規性要件」、「市場の新規性要件」、「売上高構成比要件」</li> </ul>  | <p>「売上高要件」: 新製品等の売上が:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①10%要件: 総売上高の10%以上になる</li> <li>②構成比要件: 総売上高の中で最も大きくなる</li> </ul> <p>(※) 新規性とは2020年4月以降に新たに取り組んでいる事業について「新規性」を有する(事業再構築指針の手引き—1.4版—P5)</p>                          |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金①⑦

|           | 定義                                                                                                                                                | 備考                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ③<br>業種転換 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな製品等を製造等することにより、主たる業種を変更</li> <li>「製品等の新規性要件」、「市場の新規性要件」、「売上高構成比要件」</li> </ul>                           | <p>「製品等の新規性要件」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①過去(※)に製造等した実績がない</li> <li>②製造等に用いる主要な設備を変更する</li> <li>③定量的に性能又は効能が異なる</li> </ul> <p>「市場の新規性要件」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①既存製品等と新製品等の代替性が低い</li> </ul>                                                                                                                                             |
| ④<br>業態転換 | <ul style="list-style-type: none"> <li>製品等の製造方法等を相当程度変更</li> <li>「製造方法等の新規性要件」、「製品の新規性要件」(製造方法の変更の場合)又は「設備撤去要件」(提供方法の変更の場合)、「売上高10%要件」</li> </ul> | <p>「製造方法等の新規性要件」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①過去に(※)同じ方法で製造した実績がない</li> <li>②製造等に用いる主要な設備を変更する</li> <li>③定量的に性能又は効能が異なる</li> </ul> <p>「設備撤去要件」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①既存の設備の撤去や既存の店舗の縮小等を伴うもの</li> </ul> <p>「売上高要件」: 新製品等の売上が:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①10%要件: 総売上高の10%以上になる</li> <li>②構成比要件: 総売上高の中で最も大きくなる</li> </ul> |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金⑬

|        | 定義                                                                                                                                     | 備考                                                                                                                              |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑤ 事業再編 | <ul style="list-style-type: none"> <li>会社法上の組織再編行為を行い、新事業形態のもと、新分野展開、事業転換、業種転換、業態転換のいずれかを行う</li> <li>「組織再編要件」、「その他の事業再構築要件」</li> </ul> | <p>「組織再編要件」<br/>会社法上の組織再編行為を行う→「合併」、「会社分割」、「株式交換」、「株式移転」、「事業譲渡」</p> <p>「その他の事業再構築要件」<br/>①新分野展開、②事業転換、③業種転換、④業態転換のどれかの条件に合う</p> |

- 日本標準産業分類

[https://www.soumu.go.jp/toukei\\_toukatsu/index/seido/sangyo/02toukatsu01\\_03000023.html](https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/sangyo/02toukatsu01_03000023.html)

- 大(業種)・中(事業)・小分類(事業)・細分類(事業)での変更が必要

|        | 大分類 | 中分類     | 小分類 | 細分類 | 例                                           |
|--------|-----|---------|-----|-----|---------------------------------------------|
| ①新分野展開 | 変更無 | 変更無     | 変更無 | 変更無 |                                             |
| ②事業転換  | 変更無 | どこかで変更有 |     |     | 大:M飲食/中:76飲食店/小:762専門料理店/細:7621日本料理→7625焼肉店 |
| ③業種転換  | 変更  | ←       | ←   | ←   | 大:K不動産・物品賃貸業→M宿泊業                           |
| ④業態転換  | 変更無 | 変更無     | 変更無 | 変更無 |                                             |

### 3. 事業再構築補助金⑭

#### ①新分野展開:製造業

航空機用部品を製造していた製造業者が、業界全体が業績不振で厳しい環境下の中、新たに医療機器部品の製造に着手し、5年間の事業計画期間終了時点で、医療機器部品の売上高が総売上高の10%以上となる計画を策定

| 要件        | 要件を満たす考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 製品等の新規性要件 | <p>①過去に製造等した実績がないこと<br/>新たに製造する医療機器部品が、過去に製造した実績のない部品であれば、要件を満たす。</p> <p>②製造等に用いる主要な設備を変更すること<br/>医療機器部品を製造するため、航空機専用の生産設備とは異なる専用の生産設備が新たに必要であり、当該設備を導入する場合には、要件を満たす。</p> <p>③定量的に性能又は機能が異なること<br/>新たに製造する医療機器部品と従来製造していた航空機用部品が異なる部品であれば、定量的に性能又は機能（強度や軽さ等）を比較することが難しいことを示すことで要件を満たす。ただし、両部品が類似の製品であって、その性能（強度や軽さ等）を比較することが可能な場合には、差異を定量的に説明することで、要件を満たす。</p> |
| 市場の新規性要件  | <p>既存製品等と新製品等の代替性が低いこと<br/>医療機器部品と航空機用部品では、その用途が異なり、医療機器部品を新たに製造・販売することによって、航空機用部品の需要が代替され、売上が減少することは見込まれないと考えられることを説明することで、要件を満たす。</p>                                                                                                                                                                                                                        |
| 売上高10%要件  | <p>3～5年間の事業計画期間終了後、新たな製品等の売上高が総売上高の10%以上となる計画を策定すること<br/>5年間の事業計画期間終了後、医療機器部品の売上高が総売上高の10%以上となる計画を策定することで要件を満たす。</p>                                                                                                                                                                                                                                           |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved



### 3. 事業再構築補助金②①

#### ②事業転換：飲食サービス業

日本料理店が、換気の徹底によりコロナの感染リスクが低いとされ、足元業績が好調な焼肉店を新たに開業し、3年間の事業計画期間終了時点において、焼肉事業の売上高構成比が、標準産業分類の細分類ベースで最も高い事業となる計画を策定

●大分類：M宿泊業・飲食サービス業：変更無 ●中分類：76飲食店：変更無

●小分類：762：専門料理店：変更無 ●細分類：7621日本料理店→7625焼肉店

| 要件        | 要件を満たす考え方                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 製品等の新規性要件 | <p>①過去に製造等した実績がないこと 過去に<b>焼肉店を営んだことがなければ</b>、要件を満たす。</p> <p>②製造等に用いる主要な設備を変更すること 焼肉店の開業に当たって、<b>新たに卓上備え付けのロースター等の設備や内装の改裝などが必要であり、その費用がかかる</b>場合には、要件を満たす。</p> <p>③定量的に性能又は効能が異なること 日本料理店と焼肉店では、提供する<b>商品が異なり、定量的に性能又は効能を比較することが難しい</b>ことを示すことで要件を満たす。</p> |
| 市場の新規性要件  | <p>既存製品等と新製品等の代替性が低いこと 例えば、大衆向けとして沖縄料理を提供している日本料理店が、高価格帯の商品を提供する焼肉店を始める場合、<b>異なる顧客のニーズに応えるものであることから、焼肉屋により、日本料理屋の需要が代替され、売上高が減少するといった影響が見込まれない</b>と考えられることを説明することで、要件を満たす。</p>                                                                             |
| 売上高構成比要件  | <p>3～5年間の事業計画期間終了後、新たな製品の属する事業が、売上高構成比の最も高い事業となる計画を策定すること 「日本料理店」と「焼肉店」は、<b>日本標準産業分類の細分類ベースで異なる分類</b>がなされている。従って、3年間の事業計画期間終了時点において、<b>焼肉事業の売上高構成比が、日本標準産業分類細分類ベースで最も高くなる計画を策定</b>していれば、要件を満たすこととなる。</p>                                                   |

### 3. 事業再構築補助金②①

#### ③業種転換：賃貸業

レンタカー事業を営んでいる事業者が、新たにファミリー向けのコロナ対策に配慮した貸切ペンションを経営し、レンタカー事業と組み合わせた宿泊プランを提供することで、3年間の事業計画期間終了時点において、貸切ペンション経営を含む業種の売上高構成比が最も高くなる計画を策定

●大分類：K不動産業・物品賃貸業→M宿泊業・飲食サービス業

| 要件        | 要件を満たす考え方                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 製品等の新規性要件 | <p>①過去に製造等した実績がないこと 過去に<b>貸切ペンション経営を営んだことがなければ</b>、要件を満たす。</p> <p>②製造等に用いる主要な設備を変更すること ペンションを改築するため、<b>新たに建物改修等が必要であり、その費用がかかる</b>場合には、要件を満たす。</p> <p>③定量的に性能又は効能が異なること 貸切ペンション経営とレンタカー事業では、提供する<b>サービスが異なり、定量的に性能又は効能を比較することが難しい</b>ことを示すことで要件を満たす。</p> |
| 市場の新規性要件  | <p>既存製品等と新製品等の代替性が低いこと 新たに貸切ペンション経営を始めたことで、レンタカー事業の需要が代替され、売上高が減少するといった影響が見込まれない（むしろ相乗効果により増加する）と考えられることを説明することで、要件を満たす。</p>                                                                                                                             |
| 売上高構成比要件  | <p>3～5年間の事業計画期間終了後、新たな製品の属する業種が、売上高構成比の最も高い事業となる計画を策定すること 「レンタカー」（不動産業、物品賃貸業）と「ペンション経営」（宿泊業、飲食サービス業）は、<b>日本標準産業分類の大分類ベースで異なる分類</b>がなされている。従って、3年間の事業計画期間終了時点において、<b>ペンション経営を含む業種の売上高構成比が最も高くなる計画を策定</b>していれば、要件を満たすこととなる。</p>                            |

### 3. 事業再構築補助金②②

#### ④業態転換：サービス業

ヨガ教室を経営していたところ、コロナの影響で顧客が激減し、売上げが低迷していることを受け、サービスの提供方法を変更すべく、店舗での営業を縮小し、オンライン専用のヨガ教室を新たに開始し、オンライン専用のヨガ教室の売上高が、3年間の事業計画期間終了後、総売上高の10%以上を占める計画を策定

| 要件              | 要件を満たす考え方                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 製造方法等の新規性要件     | ①過去に同じ方法で製造等していた実績がないこと<br>過去にオンラインサービスを営んだ実績がない場合には、要件を満たす。<br>②新たな製造方法等に用いる主要な設備を変更すること<br>オンラインサービスを開始するために、新たに配信機材等を導入する必要がある、その費用がかかる場合には、要件を満たす。<br>③定量的に性能又は機能が異なること<br>新たに導入した提供方法により、1回当たりの提供コスト等、生産効率などの程度改善しているか等を示すことで要件を満たす。                    |
| 商品等の新規性要件       | ①過去に製造した実績がないこと<br>例えば、ヨガに加えて、新たにエアロビクスを始める場合<br>過去にエアロビクスのサービスを提供したことがなければ要件を満たす。<br>②主要な設備を変更すること<br>エアロビクスのサービスを新たに始めるために、新たに大型ミラーの設置や防音設備等が必要であり、その費用がかかる場合には、要件を満たす。<br>③定量的に性能又は機能が異なること<br>ヨガとエアロビクスは、異なるサービスであり、定量的に性能又は機能を比較することが難しいことを示すことで要件を満たす。 |
| or要件<br>設備撤去等要件 | 新たな方法で提供される商品又はサービスが新規性を有するもの又は既存設備の撤去や既存店舗の縮小等を伴うものであること<br>店舗の営業を縮小するに際して、既存設備を撤去することを示すことで要件を満たす。                                                                                                                                                         |
| 売上高<br>構成比要件    | 3～5年間の事業計画期間終了後、新たな製造方法等による売上高が、総売上高の10%以上を占める計画を策定すること<br>3年間の事業計画期間終了時点において、オンラインサービスの売上高が、総売上高の10%以上となる計画を策定していることで要件を満たす。                                                                                                                                |

21

### 3. 事業再構築補助金②③

#### □ 一覧(再載)

|              | 例                   | 必要要件                 |                                 |                          |               |
|--------------|---------------------|----------------------|---------------------------------|--------------------------|---------------|
| (1)<br>新分野展開 | 新製品<br>現業種の新市場      | ①製品等の<br>新規性要件       | ②市場の新規<br>性要件                   |                          | ③売上高<br>10%要件 |
| (2)<br>事業転換  | 新製品<br>新業種の市場       | ①製品等の<br>新規性要件       | ②市場の新規<br>性要件                   |                          | ③売上高<br>構成比要件 |
| (3)<br>業種転換  | 新製品<br>新業種の市場       | ①製品等の<br>新規性要件       | ②市場の新規<br>性要件                   |                          | ③売上高<br>構成比要件 |
| (4)<br>業態転換  | 新製品<br>新製造・提供<br>方法 | ①製造方法<br>等の新規性<br>要件 | ②製品等の新<br>規性要件(製<br>造方法の変<br>更) | ③設備投資<br>要件(提供方<br>法の変更) | ④売上高<br>10%要件 |
| (5)<br>事業再編  |                     | ①組織再編<br>要件          | ②その他の事<br>業再構築要件                |                          |               |



### 3. 事業再構築補助金②④

#### (2) 売上高減少要件について

- 事業や店舗ごとではなく、企業単位で事業や店舗を合算した売りが減少している必要があります。(公募要領P31)
- 「任意の3か月」: 連続した3か月である必要はない
- 「コロナ以前の同3か月」とは、原則、事業者が任意で選択した3か月と2019年1月～12月又は2020年1月～3月の同3か月(罹災時は2018年も可)
- **コロナの影響によらない売上高減少は対象外**

#### (3) 認定支援機関要件について(認定経営革新等支援機関)

- 商工団体、金融機関、税理士、公認会計士、中小企業診断士等  
[https://ninteishien.force.com/NSK\\_CertificationArea](https://ninteishien.force.com/NSK_CertificationArea)
- 事業計画を認定支援機関と策定、「認定支援機関による確認書」を提出
- 補助金額3,000万円を超える事業計画は、金融機関及び認定支援機関(金融機関が認定支援機関であれば当該金融機関のみでも可)と共同で策定する必要があります。3,000万円を超える事業計画は、「金融機関による確認書」も要提出

33

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金②⑤

#### (4) 付加価値額要件について(公募要領P16)

- 付加価値額＝営業利益＋人件費＋減価償却費
- 成果目標の付加価値額は補助事業終了年度の付加価値額

34

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金②⑥

□ **加点要件: 通常枠等(公募要領P35)**

【令和3年の国による緊急事態宣言の影響を受けた事業者に対する加点】

1. 令和3年の国による 緊急事態宣言に伴う飲食店の時短営業や不要不急の外出・移動の自粛等により影響を受けたことにより、2021年1月～9月のいずれかの月の売上高が対前年（又は対前々年）同月比で 30%以上減少していること（通常枠、最低賃金枠のみ、特別枠は必須）
2. 上記の条件を満たした上で、2021年1月～9月のいずれかの月の固定費、家賃、人件費＋光熱費等の固定契約料）が同期間に受給した協力金の額を上回ること：飲食業等協力金が出た場合のみ。
3. （2次より）経済産業省が行うEBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案）の取り組みに協力。電子申請システムにおける項目チェックのみ。
4. **（今回より）「パートナーシップ構築宣言」**

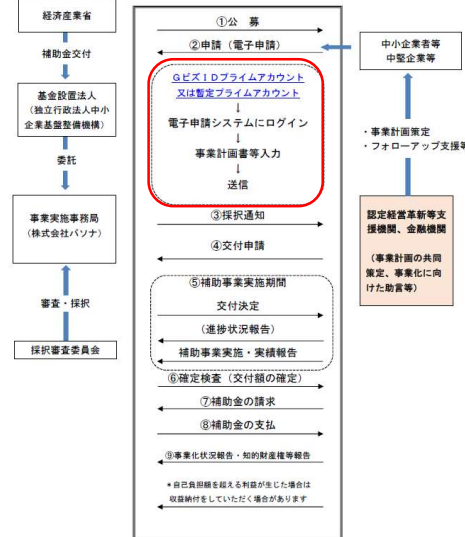
### 3. 事業再構築補助金②⑦

□ **対象外となる事業計画(注意が必要な物のみ)**

1. 具体的な再構築の実施の大半を他社外注、委託し、企画だけを行う事業
2. テーマや事業内容から判断し、(過去又は現在の)国(独立行政法人等を含む)が助成する他の制度(補助金、委託費、固定価格買取制度等)と同一又は類似内容の事業
3. 他の法人・事業者と同一又は類似内容の事業
4. 建築又は購入した施設・設備を 自ら占有し、事業の用に供することなく、特定の第三者に 長期間 賃貸 させるような 事業

### 3. 事業再構築補助金②⑧

#### □ 全体の流れ



copyright©2020 nomoto partners all right reserved

37

### 3. 事業再構築補助金②⑨

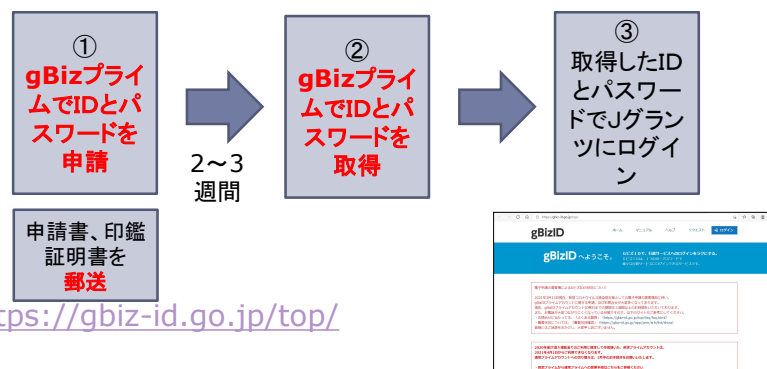
| 3次締切の場合        | スケジュール(予定) * 特に交付以降は推測です                                    |
|----------------|-------------------------------------------------------------|
|                | ①事前にgBizプライムでID、PWを取得                                       |
| 2021年12月21日(火) | ②申請書作成 & 申請(電子システムへ入力)                                      |
| 2022年2月中～下旬    | ③採択決定⇒連絡⇒見積もり、納入スケジュール決定                                    |
|                | ④交付申請                                                       |
| 2022年3月中～下旬    | ⑤交付決定⇒連絡                                                    |
|                | ⑥機械等正式発注                                                    |
|                | ⑦機械等納入、検収⇒稼働開始                                              |
|                | ⑧機械等代金支払い                                                   |
| 2023年3月中～下旬    | ⑨実績報告① 交付日の12カ月以内(採択日の14カ月以内)<br>* 事業期間を短くすれば実績報告・支払も早くなります |
|                | ⑩確認検査⇒交付金の決定                                                |
| 2023年4月末       | ⑪補助金請求⇒支払い                                                  |
|                | ⑫実績報告②～⑥(今後5年間)                                             |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

38

### 3. 事業再構築補助金③⑩

- 申請方法
- 事業再構築補助金ウェブサイトから電子申請
- <https://jigyousaiku-saikouchiku.jp/>
- 申請の流れ



copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金③⑪

- 申請書類

|   | 必要書類等                              | 参考書類                                           |
|---|------------------------------------|------------------------------------------------|
| 1 | 事業計画書                              | 15ページ以内—「電子申請入力項目」参照<br>* 補助額1,500万円以下は10ページ以内 |
| 2 | 認定経営革新等支援機関・金融機関による確認書             | ダウンロード可能<br>金融機関確認書は3,000万円超の場合                |
| 3 | コロナ以前に比べて売上高が10%以上減少したことを示す書類      | コロナ前と後の確定申告書控え等                                |
| 4 | 2期分決算書                             |                                                |
| 5 | 事業財務情報                             | ミラサポプラスの「電子申請サポート」よりPDF化                       |
| 6 | 労働者名簿                              | 特別枠申請者のみ                                       |
| 7 | コロナ以前に比べて売上高が30%以上減少したことを示す書類      | 特別枠申請者のみ/通常枠では加点                               |
| 8 | 2021年1~9月の固定費が受給した協力金より多いことを証明する書類 | 特別枠申請者のみ/通常枠では加点                               |
| 9 | 宣誓書                                | ダウンロード可能                                       |

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

事業計画書(電子申請入力項目の事業計画書-P9~11-参照)

事業計画書(電子申請入力項目の事業計画書-P9~11-参照)

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

## 事業計画書記入必要事項(電子申請入力項目の事業計画より抜粋)

(1)事業再構築要件について

- ・4つの枠のうちどれか？
- ・5つのタイプのうちどれか？
- ・各要件にあっているか？

(1)事業再構築要件について

- ・4つの枠のうちどれか？
- ・5つのタイプのうちどれか？
- ・各要件にあっているか？

### ① 現在の事業の状況

### ① 現在の事業の状況

②強み・弱み、機会・脅威

### ③事業環境、事業再構築の必要性

## ④事業再構築の具体的内容(提供する製品・サービス、導入する設備、工事等)

- ・今回の補助事業で実施する新分野展開や業態転換
- ・事業・業種転換等の取組、事業再編又はこれらの取組について具体的に記載

## ⑤事業実施期間内に投資する建物の建設・改修等の予定、機械装置等の型番、取得時期や

技術の導入や専門家の助言、研修等の時期など可能な限り詳細なスケジュールを記載

⑥応募申請する枠と事業再構築の類型に応じて、「事業再構築指針」に沿った事業計画を作成。

どの種類の事業再構築の類型に応募するか、どの種類の再構築なのかについて、事業再構築指針とその手引きを確認して記載。

⑦補助事業を行うことによって、どのように他者、既存事業と差別化し競争力強化が実現するか

について、その方法や仕組み、実施体制など、具体的に記載

### 3. 事業再構築補助金③④

#### 事業計画書記入必要事項(同)

#### ②将来の展望

- (1)本事業の成果が寄与すると想定している具体的なユーザー、マーケット及び市場規模等について、その成果の価格的・性能的な優位性・収益性や課題やリスクとその解決方法などを記載
- (2)本事業の成果の事業化見込みについて、目標となる時期・売上規模・量産化時の製品等の価格等について記載。

#### ③本事業で取得する主な資産

#### ④収益計画

- (1)事業終了後に付加価値額(一人当たりの付加価値額)年平均3.0%以上成長
- (2)本事業の実施体制、スケジュール、資金調達計画等について具体的に記載。
- (3)収益計画(表)における「付加価値額」の算出については、算出根拠を記載。

|                      | 最近の決算年度<br>【年 月】 | 補助事業前<br>7年度<br>(基準年度)<br>【年 月】 | 1年度<br>【年 月】 | 2年度<br>【年 月】 | 3年度<br>【年 月】 | 4年度<br>【年 月】 | 5年度<br>【年 月】 |
|----------------------|------------------|---------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① 売上 額               |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| ② 営業 利益              |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| ③ 経常 利益              |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| ④ 人 件 費              |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| ⑤ 減価償却費              |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| 付加価値額(②-④-⑤)         |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| 伸び率(%)               |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| 従業員数(名)              |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| 従業員一人当たりの付加価値額(円)    |                  |                                 |              |              |              |              |              |
| 従業員一人当たりの付加価値額伸び率(%) |                  |                                 |              |              |              |              |              |

※事業に資する、補助事業終了年度の算入済み額を記入してください。  
※算出根拠の明記を要。算出の数字に裏を添えて、付加価値額の算出の算出根拠を記載します。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金③⑤

#### 審査項目(公募要領P34~35)

#### (1)補助対象事業としての適格性

- ①「補助対象事業の要件」を満たすか。
- ②補助事業終了後3~5年計画で「付加価値額」年平均3.0%以上の増加を達成する取組であるか。

#### (2)事業化点

- ①-1本事業の目的に沿った事業実施のための体制(人材、事務処理能力等)や最近の財務状況等から、補助事業を適切に遂行できると期待できるか。
- ①-2金融機関等からの十分な資金の調達が見込めるか。
- ②-1事業化に向けて、競合他社の動向を把握すること等を通じて市場ニーズを考慮するとともに、補助事業の成果の事業化が寄与するユーザー、マーケット及び市場規模が明確か。
- ②-2市場ニーズの有無を検証できているか。
- ③-1補助事業の成果が価格的・性能的に優位性や収益性を有するか。
- ③-2事業化に至るまでの遂行方法及びスケジュールが妥当か。
- ③-3補助事業の課題が明確になっており、その課題の解決方法が明確かつ妥当か。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金③⑥

#### (2)事業化点

④-1補助事業として費用対効果(補助金の投入額に対して増額が想定される付加価値額の規模、生産性の向上、その実現性等)が高いか。

④-2その際、現在の自社の人材、技術・ノウハウ等の強みを活用することや既存事業とのシナジー効果が期待されること等により、効果的な取組となっているか。

#### (3)再構築点

①-1事業再構築指針に沿った取組みであるか。

①-2全く異なる業種への転換など、リスクの高い、思い切った大胆な事業の再構築を行うものであるか。

②既存事業における売上の減少が著しいなど、新型コロナウイルスの影響で深刻な被害が生じており、事業再構築を行う必要性や緊要性が高いか。

③市場ニーズや自社の強みを踏まえ、「選択と集中」を戦略的に組み合わせ、リソースの最適化を図る取組であるか。

④先端的なデジタル技術の活用、新しいビジネスモデルの構築等を通じて、地域のイノベーションに貢献し得る事業か。

45

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

### 3. 事業再構築補助金③⑦

#### (4)政策点

①先端的なデジタル技術の活用、低炭素技術の活用、経済社会にとって特に重要な技術の活用等を通じて、我が国の経済成長を牽引し得るか。

②新型コロナウイルスが事業環境に与える影響を乗り越えてV字回復を達成するために有効な投資内容となっているか。

③ニッチ分野において、適切なマーケティング、独自性の高い製品・サービス開発、厳格な品質管理などにより差別化を行い、グローバル市場でもトップの地位を築く潜在性を有しているか。

④地域の特性を活かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより雇用の創出や地域の経済成長を牽引する事業となることが期待できるか。

⑤異なるサービスを提供する事業者が共通のプラットフォームを構築してサービスを提供するような場合など、単独では解決が難しい課題について複数の事業者が連携して取組むことにより、高い生産性向上が期待できるか。また、異なる強みを持つ複数の企業等(大学等を含む)が共同体を構成して製品開発を行うなど、経済的波及効果が期待できるか。

46

copyright©2020 nomoto partners all right reserved



### 3. 事業再構築補助金③⑧

#### □ その他の申請書作成時のポイント

- ① 分かり易く記載する：単語、表現等一審査委員は業界の素人
- ② 図表や写真を多く使う
- ③ 可能な限り実名入りで（競合、顧客、社員）

### 3. 事業再構築補助金③⑨

#### □ 申請書記載例-1

- P39にある電子申請入力項目資料の順序には沿っていませんのでご注意ください。
- 黒字はタイトルとして使えます。赤字は記載する内容になります。

#### 1. 補助事業の具体的取組内容

##### 1. 現在の事業の状況

##### (1) 当社の沿革及び概要

- ・歴史（創業から）
- ・業務内容
- ・顧客、仕入先、外注先  
（シェアや売上金額など）
- ・製造等工程（発注から納品までの流れ）

##### (2) 当社の事業現状

- ・所属する業界の状態
- ・当社の売上・利益状況（過去3年ぐらい）

##### (3) 当社の特徴、強み

- ・技術的強み  
（社員のもつ技術、企業の持つノウハウ）
- ・人脈（顧客、仕入先等）

##### (4) 当社の課題

- ・当社の問題点
- ・将来のなりたい姿と現状の差

##### 2. 事業再構築の必要性

- ・当社の問題点
- ・コロナによる業績不振  
→上記を解決するために今回の新事業が必要！

##### 3. 新事業の概要

- ・誰に、何を、どうやって売るか
- ・何を一販売する商品及びその商品を使った時の消費者の価値
- ・新事業開始時の課題と解決策

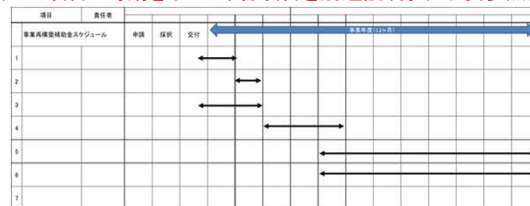
##### 4. 競合への優位性

### 3. 事業再構築補助金④①

#### □ 申請書記載例-2

##### 5. 実施スケジュール(補助事業期間終了まで)

・表にて項目と時期を示して、各項目を別途説明。以下表参照。



##### 6. 新事業実施体制

・リーダー、担当者……

##### 7. 事業再構築要件との整合性

今回の新規取り組みは、「〇〇〇〇」に当てはまると考える。

|                          |                  |                  |
|--------------------------|------------------|------------------|
| ① 製品等の新規性要件 <sup>①</sup> | ・ ① <sup>②</sup> | ・ ② <sup>③</sup> |
| ② 市場の新規性要件 <sup>①</sup>  | ・ ① <sup>②</sup> | ・ ② <sup>③</sup> |
| ③ 売上高 10%要件 <sup>①</sup> | ・ ① <sup>②</sup> |                  |

### 3. 事業再構築補助金④①

#### □ 申請書記載例-3

##### 2. 将来の展望(事業化にむけて想定している市場及び期待される効果)

###### 1. 市場ニーズと新事業について

(ア) 市場状況とユーザーニーズ

###### 2. 費用対効果の証明

(ア) 販売計画

- ・販売先、販売数をより具体的に
- ・販売単価の根拠
- ・販促計画

(イ) 費用及び利益計画

- ・製造原価、販管費、人件費等の説明

###### 3. 地域への貢献等

- ・他社への見本、影響
- ・地域の雇用への貢献
- ・SDGs

##### 3. 本事業で取得する主な資産

| 建物の事業用途、又は、<br>機械設置等の名称・型番 <sup>①</sup> | 建物又は製品等分類 <sup>②</sup><br>(日本標準分類・中分類) <sup>③</sup> | 取得予定価額<br>(税別値) <sup>④</sup> | 建物又は設置等を行う事業<br>実施場所 <sup>⑤</sup> |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| ①                                       | ②                                                   | ④                            | ⑤                                 |
| ①                                       | ②                                                   | ④                            | ⑤                                 |

### 3. 事業再構築補助金④②

#### □ 申請書記載例-4

#### 4. 会社全体の事業計画

##### 1. 事業計画の実現可能性

- ・付加価値の算出根拠
- ・投資の回収年数

| ①                 | 直近の決算年度<br>[年 月] | 補助事業終了年度<br>[年 月] | 1年後<br>[年 月] | 2年後<br>[年 月] | 3年後<br>[年 月] | 4年後<br>[年 月] | 5年後<br>[年 月] |
|-------------------|------------------|-------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① 売上高             |                  |                   |              |              |              |              |              |
| ② 営業利益            |                  |                   |              |              |              |              |              |
| ③ 経常利益            |                  |                   |              |              |              |              |              |
| ④ 人件費             |                  |                   |              |              |              |              |              |
| ⑤ 減価償却費           |                  |                   |              |              |              |              |              |
| 付加価値②+③-④-⑤       |                  |                   |              |              |              |              |              |
| 伸び率(%)            |                  |                   |              |              |              |              |              |
| 従業員数(名)           |                  |                   |              |              |              |              |              |
| 従業員一人あたりの付加価値額(円) |                  |                   |              |              |              |              |              |
| 従業員一人あたりの付加価値率(%) |                  |                   |              |              |              |              |              |

##### 2. 資金調達について

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

51

### 3. 事業再構築補助金④③

#### □ その他注意点-1

#### □ 以下の経費は対象になりません。

1. 事務所等に係る家賃、保証金、敷金、仲介手数料、光熱費
2. 販売する商品の原材料費、文房具などの事務用品等の消耗品代、雑誌購読料、団体の会費
3. 不動産・自動車の購入費
4. 申請書作成にかかわる費用
5. 汎用性があり、目的以外にも使用できるもの：PC、プリンター、文章作成ソフトウェア等
6. 中古品（3者以上の中古品流通業者からの見積もりがあれば可）
7. 自社の人件費、旅費

#### □ 補助対象経費は事業期間内に当該事業のために支払いを行ったことが確認できることが必要。

#### □ 単価50万円（税抜）以上の商品は全て相見積もりが必要。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

52

### 3. 事業再構築補助金④④

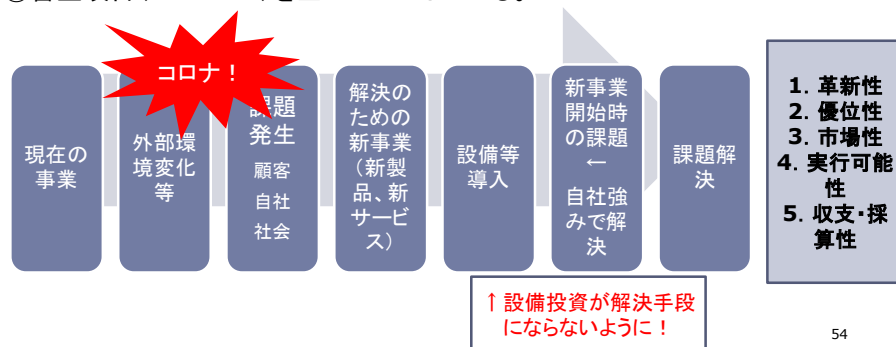
#### □ その他注意点-2

1. 消費税は補助金算定時には入れない。
2. 交付後に事業の変更、中止は事務局の許可が必要です。
3. 事業終了後30日以内もしくは事業期間終了後に報告書の提出が必要です。
4. その後5年間の報告書の提出が必要です。
5. その5年間に補助金で投資した50万円(税抜)以上の設備を処分する場合は事務局の許可が必要です。
6. 補助金が1000万円を超える案件では、本事業にて建設した建物等の施設又は設備を対象として保険又は共済への加入義務を負うことに同意が必要です。

### 3. 事業再構築補助金④⑤

#### □ 採択のためのポイント

- ①政府の期待(主旨、政策方針)に沿える計画になっている。
- ②明確なストーリー: 自社の強みや市場の機会を捉え、新開発による新市場への進出、事業・業種転換によるコロナ感染による業績悪化からの回復
- ③審査項目(P34~35)を全てカバーしている。



### 3. 事業再構築補助金④

#### □ 採択のためのポイント

- 事業再構築補助金ウェブサイト申請書見本が7つありますので、参考にしてください。

- [https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01\\_jigyokeikaku\\_01.pdf](https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01_jigyokeikaku_01.pdf)
- [https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01\\_jigyokeikaku\\_02.pdf](https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01_jigyokeikaku_02.pdf)
- [https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01\\_jigyokeikaku\\_03.pdf](https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01_jigyokeikaku_03.pdf)
- [https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01\\_jigyokeikaku\\_04.pdf](https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01_jigyokeikaku_04.pdf)
- [https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01\\_jigyokeikaku\\_05.pdf](https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01_jigyokeikaku_05.pdf)
- [https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01\\_jigyokeikaku\\_06.pdf](https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01_jigyokeikaku_06.pdf)
- [https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01\\_jigyokeikaku\\_07.pdf](https://jigyousaikouchiku.go.jp/pdf/cases/01_jigyokeikaku_07.pdf)

#### □ 1次締め切り分不採択申請書からのフィードバック

- ① 業績面でのコロナの影響が少ない。
- ② 自社に対してのコロナの影響のコメントが少なく、業界的影響のコメントが多い。
- ③ 付加価値全体に対する再構築事業の貢献割合が少ない。根拠がある範囲で高い売上割合の方が採択されやすい？
- ④ 再構築事業の定量的なマーケット・市場規模の記載が無い。
- ⑤ 再構築事業の売上計画の根拠が薄い。
- ⑥ 既存事業と再構築事業の人員体制が不明確
- ⑦ 地域経済への貢献が少ない。

copyright©2020 nomoto partners all right reserved



55

### 4. その他補助金①

#### □ ものづくり補助金

| 項目                 | 内容                                                                    |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 補助金額・補助率           | 通常枠: 100～1000万円 1/2(中規模), 2/3(小規模)<br>特別枠: 100～1000万円 2/3(全社)         |
| 要件<br>(3～5年事業計画作成) | ①給与支給総額: 年平均1.5%以上アップ<br>②事業所内最低賃金: 地域最低賃金+30円以上<br>③付加価値: 年平均3%以上アップ |
| 補助経費               | ①機械装置・システム構築費(50万円以上)<br>②その他付随費用                                     |
| 加点項目<br>(複数項目可)    | ①経営革新計画、②創業5年以内、③事業継続力強化計画<br>④-1給与総額+最低賃金<br>④-2被用者保険適用拡大任意適用        |
| 受付締切(7次)           | ⑤2021年11月11日(火)17時                                                    |

資料ダウンロード

<https://www.nomoto-partners.com/>  
copyright©2020 nomoto partners all right reserved

56

## 4. その他補助金②

- 小規模事業持続的発展支援事業(小規模事業者持続化補助金)
- 上限額: 50万円～100万円 補助率: 2/3～3/4
- 〈1〉一般型+〈2〉低感染リスク型ビジネス枠
- 小規模事業者が商工会・商工会議所と一体となって取り組む販路開拓や生産性向上の取り組みを支援
- 対象経費: 機械装置費、広告費、展示会等出展費、旅費、開発費、資材購入費、雑役務費、借料、専門家謝礼、専門家旅費、委託費、外注費
- 受付締切:  
〈1〉一般型: 2022年2月4日(金)  
加点項目: ①経営力向上計画、②事業承継、  
③給与1.5/3.0%以上増加、④最賃+30/60円  
⑤Jグランツによるオンライン申請  
〈2〉低感染リスク型ビジネス枠: 2021年11月10日(水)

57

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

## 4. その他補助金③

- サービス等生産性向上IT導入支援事業(IT導入補助金)
- 〈通常型〉 補助率: 1/2以内  
A類型(1つ以上のプロセス): 30～150万円  
B類型(4つ以上のプロセス): 150～450万円
- 〈低感染リスク型ビジネス枠〉 補助率: 2/3以内  
C類型-1/2(2つ以上のプロセス): 30～300/300～450万円  
D類型-2(2つ以上のプロセス): 30～150万円
- バックオフィス業務の効率化や新たな顧客獲得に繋がるITツールが対象
- ①労働生産性が1年目3%以上、3年目で9%以上向上する計画の作成
- ②給与総額1.5%向上、最低労働賃金+30円(A類型以外)等が必要
- 補助金ホームページに登録、公開されているITツールが対象
- 登録されたIT導入支援事業者(ITベンダー)が申請支援をする
- 申請締切: 通常枠: 4次: 11月17日(水)17時、5次: 12月中  
低感染枠: 4次: 11月17日(水)17時、5次: 12月中

58

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

## 5. 弊社支援内容①

### □ 支援内容

①事業計画申請書作成

②採択決定後の支援

例:①交付申請書類作成から補助金支払いまで

②交付申請書類作成から5年間の実績報告書類作成まで

**\* 採択後は各都道府県事務局から担当者が付き、書類作成方法を指導してくれます。**

**\* 事務局との対応は全て事業者様になります(規則により)。**

③経営革新計画等の作成及び申請支援

## 5. 弊社支援内容②

### □ 支援スケジュール

①資料の説明及び支援の決定

②インタビュー第1回目(約2時間)

③インタビュー第2回目(約2時間)

④インタビュー及び申請書ドラフト内容確認(約2時間)

④計画書作成

⑤御社での電子申請支援



## 5. 弊社支援内容③

### □ インタビューの流れ

以下の流れでインタビューさせていただきます。

- ①御社の成り立ち
- ②御社を取り巻く環境—競合の状態を含む
- ③御社の現状(事業、財務、組織)
- ④御社の事業内容と強み、弱み
- ⑤御社の事業の方向性
- ⑥今回の新事業のための設備投資等の内容とその効果
- ⑦御社の将来の計画(最低5年間)

この流れのインタビューの中で必要な全ポイントをお聞きしていきます。

## 5. 弊社支援内容④

### □ 事前に用意して頂きたい資料

- ①決算書3期分(BS、PL、製造原価報告書、販管費明細、個別注記)
- ②会社パンフレット(ウェブサイトでもOK)
- ③購入予定設備のパンフレット
- ④同上の見積書(相見積もりもあれば)
- ⑤組織図
- ⑥過去の補助金申請書や経営改革計画等の認定書
- ⑦その他御社の説明に必要と思われる資料

## 5. 弊社支援内容⑤

---

- 支援の手数料
- 弊社ウェブサイトをご確認ください。
- <https://www.nomoto-partners.com/%E4%BE%A1%E6%A0%BC%E8%A1%A8/>

## 6. 質疑応答

---

- ご不明な点があれば何でもお聞きください。



---

ご清聴ありがとうございました

copyright©2020 nomoto partners all right reserved

65